

●響く足音

●獣の唸る低い声や鎖の音

奴隷商人

「お待たせして申し訳ない」

奴隷商人

「初めまして。奴隷商人のシャーレと申します」

奴隷商人

「本日は貴方様の望む奴隷を共に探して参りますので、どうぞご安心ください」

奴隷商人

「では、こちらに」

●響く足音

奴隷商人

「さて…此度はどのような奴隷をお探しで？」

奴隷商人

「用途や嗜好によって、様々な亜人種の奴隷を取り揃えております」

奴隷商人

「魔術の実験用？　コロシウムでの闘技用？」

奴隷商人

「それとも…性奴隷でしょうか？」

●足音が止まり、主人公が一つの檻を注視する

スチア

「っ…」

リニア

「ひうつ」

奴隸商人

「それらにご興味が？」

奴隸商人

「最近来たばかりの獣人族の双子です。健康状態はまあまあ良好ですが、前の飼い主の扱いが少々乱暴でして…外傷が少し目立ちますね」

奴隸商人

「ヒトに近い獣人族が好みでしたら、より見た目の整ったものを…」

奴隸商人

「おや…これでいいのですか？」

奴隸商人

「…そうですか。畏まりました」

●檻を開ける音

奴隸商人

「さあ、新しいご主人様に挨拶を」

スチア

「スチア…なの」

リニア

「…リニアです」

奴隸商人

「この通り獣人族は血の濃い種族です。とりわけ双子となると見た目の差異はほぼありません。髪ของ少し長い方がスチア、少し短い方がリニアです」

奴隷商人

「それで、奴隷刻印はどの程度にしますか？」

スチア

「ひっ…」

奴隷商人

「刻印されたものは主人に逆らえなくなる魔術です。強く刻むほどペナルティの痛みが増し、従順で制御しやすくなり…」

奴隷商人

「おや、刻印は不要ですか。ふむ…成る程」

奴隷商人

「いえ、貴方様がそうお望みでしたら構いませんとも」

スチア

「…いい、の？」

スチア

「…っ」

奴隷商人

「ではこれより彼女達は貴方様のものでございます」

奴隷商人

「お買い上げ、ありがとうございます」

●足枷が外れる音

（暗転）

●足音。家の前

スチア

「ここが…ご主人様のお家」

リニア

「…おっきいです」

●ドアを開ける音

スチア

「お、お邪魔します…なの」

リニア

「…します」

●棚の戸を開けて、靴を置く

リニア

「え…？ なん…ですか、これ…」

スチア

「靴…？」

スチア

「…スチア達が、使っていいの？」

スチア

「…あ、ありがとうございます…なのっ。ほら、リニアも履くの」

リニア

「あ、う…うんっ」

●靴を履く音

リニア

「っ…、しょっ…」

スチア

「それで…スチア達は何をすればいいの？」

リニア

「っ…、やあっ！」

●躓いて転ぶ

●花瓶が割れる音

リニア

「っ…！」

リニア

「あっ、あああ…ごめんさないっ…、ごめん…なさいっ」

スチア

「ごめんなさいなのっ。リニアは脚が悪くて…」

スチア

「ちゃんと靴履いたことがなくてっ…それでっ」

リニア

「ごめんなさい…ごめんなさいごめんなさいっ」

●魔術を使う音

リニア

「ひっうっ…」

リニア

「…？」

リニア

「あれ…、怪我が…治って…」

スチア

「これ…治療魔術…。すごい…」

●魔術の音終了

スチア

「ありがとうございます…なのっ」

リニア

「…」

スチア

「ほら、リニアもお礼を言うのっ」

リニア

「あっ…、ありがとうございますっ」

リニア

「ご、ごめんなさい…びっくりしちゃって…本当にありがとうございます」

スチア

「治療魔術はかなり魔力と気力を使うって聞いたの…ご主人様、今の行為に報いられるように、スチアが何でもするの…」

リニア

「違うよっ…元々はリニアが悪いんだもん。割ってしまった花瓶、どう償えばいいですか？」

スチア

「え…」

リニア

「え…」

リニア

「…何も、ないんですか？ どうして…」

スチア

「ご主人様…。何でもするの。だからっ」

スチア

「リニア達は奴隷なの…貰ったらその分、いや…倍にしてお返ししないといけないの…なのに、なのにこんな…」

スチア

「お願いだから、早くご奉仕させてほしいのっ…」

スチア

「気にしないでっ…そんなの」

リニア

「…これからは家族…ですか？ 私たちが？」

リニア

「私達が、家族…」

スチア

「よく…わからないの」

リニア

「あ…いいえっ。嫌じゃない、です…」

リニア

「ご主人様がお望みでしたら…」

スチア

「リニア達は…ご主人様に従うの」